
僕の世界

さやインゲン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の世界

【Nコード】

N3183B

【作者名】

さやインゲン

【あらすじ】

『僕は小学4年生。僕から見た世界って、こんな感じ。少しだけ教えてあげるね…。』僕の日常をコミカルに、シリアスに描いた作品。

ワールド1（前書き）

テーマは『癒し』。みなさんも、僕の世界と一緒に体験してください！

ワールド1

（祖父と戦争）

「人はなぜ必要以上に、力を欲しがるのか！大切な人を守るだけの力を持つていれば、十分であるのに…。」

祖父が繰り返し熱弁した言葉。

普段、涙を見せない頑固な祖父が、男泣きしてしまう話。それが、戦争の話。

ニュースで、外国は戦争がまだ起こっていることを発表する度に、祖父は語るのだった。

「日本は、今は平和じゃが、昔は戦争が起こっていた。わしがまだ、おまえくらい頃じゃ。」

…と言われても。

「それは、それは悲惨なものじゃった。辺り一帯、火の海。泣き叫ぶ人々。楽しんでいるかのように、爆弾を落とし続ける飛行機…」

祖父は、そこで話を止めた。固く握られた拳が、怒りのあまり震えている。

僕には、わからない。戦争が悲惨なものだってことは分かるけど、学校の授業と、祖父の話でしか戦争を知ることができないから。

「どうして…。」

祖父は、小さい声で、かろうじて聞き取れる声でつぶやき、うつむいた。

戦争か…。祖父の話し方、涙ながらに語るところから考えると、悲しいものなんだろうなあ。実際に戦争を体験し、母をなくした祖父が言うのだから、本当なんだろうなあ。もし今、戦争が起きたら、僕や僕の家族、友達…。みんな、どうなるんだろう？

祖父の話を聞きながら、僕はぼんやりと考えていた。

とある日。祖父が、懐かしそうに古びたコインを眺めているのを発

見した。今まで見たことのないコイン。

「それ、何？」

僕は、祖父にそっと近付いて、聞いてみた。祖父は、まるでいたずらをしているのを見つけられた時の子供みたいに、ビクンと体を痙攣させた。

それから、ゆっくりと振り返って、恥ずかしそうに笑う。

穏やかな笑みだった。えくぼがほげていて。

「これはな、約束のコインじゃ。」

「約束のコイン？」

錆だらけで、彫ってある文字さえ見えなくなっている、もと金色のコインが？百円玉くらいの大きさで、薄さも同じくらい。

祖父は、僕に近くに座るようにと、言った。僕が、うんと返事をし隣に座ると、今度は僕の掌に、そのコインを優しく載せた。そして、語る。

「このコインは、ばあさんとの約束なんじゃ。わしが指輪の代わりに、プレゼントしたコインなのじゃ。…ばあさんが使っていた、桐タンスの引き出し三段目の奥深くに、しまわれていた。ばあさん、大事にしててくれたんじゃないなあ。」

目を細めて、遠くを見つめる祖父。

「孫よ。頼みたいことがあるのじゃが…」

「なに？」

「わしが亡くなったら、このコインをわしの墓に埋めてほしい。」

「いいよ。でも、いいの？」

祖父は、僕の手をぎゅっと握った。少し痛い。

「いいんじゃない。ばあさんとの約束を果たすためにも、これはわしが

持っておきたいんじゃない。天国に行ったら、ばあさんにもう一度プレゼントし直すつもりじゃから。」

そう言って、照れ臭そうに頬をかく祖父は、僕と同年の少年のように見えた。

そのできごとから、3年後。祖父は、帰らぬ人となった。85歳の夏だった。

僕は、祖父の墓の地面に浅く穴を掘った。コインをそこにそっと置いて、土を被せて埋め直した。

おじいちゃん、おばあちゃんと仲良く、いつまでも幸せに暮らしてね。あ、コインを渡すのを忘れないようにね。

母さんは、祖父のことを

「なんでお父さんは、あんなに頑固なのかしら…？私が帰ったら、『飯だ！飯！腹が減ったぞ！』って言って、『今からしますよ。』って答えると、『早くしろ！』だもの。はあ、もう嫌だわ。」

父さんも、

「お義父さんは、気難しい人だ。…本当になぜあなののか。」と愚痴をこぼす。

けれど、祖父は本当は照れ臭いだけなんだ。いつも、僕にだけ話してくれた。

『頑固オヤジだと娘と婿に、思われてることじゃろう。…でも、おまえだけは誤解しないでくれ、孫よ。わしは、本当は…』

その続きは、僕の心の中にしまっておいた。

いつかは、母と父に話すつもりだけど、それがいつになるかは、僕にもわからない。

ワールド1（後書き）

なんとなく作ったつもりが、友達に大評判でした。まだ続きもありますので、評判が良かったら、のせます☆

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3183b/>

僕の世界

2011年1月4日14時55分発行